

最終とりまとめまでの課題の整理

第3回委員会において指摘された内容について、中間とりまとめに反映した部分、及び最終とりまとめまでに反映する部分を整理し、以下にまとめた。

第3回奄美群島森林生態系保護地域保全管理委員会において出された主な意見

項目	中間とりまとめにて反映	最終とりまとめまでに反映
はじめに		○雨が多く、保水性が悪い当該地域では、人間も含めて森林から恩恵を受けている。林野庁として計画を策定するのであれば、治山・治水機能の重要性を含む、森林の多面的機能を評価する視点も盛り込む必要がある。
第1 対象地の概要	○森林に関する産業について、パルプ・チップ生産のみ記述があるが、実際は他にも産業があることから、パルプ・チップに限定した記述にすべきではない。 ○森林の概況について、二次林から原生的自然林への回帰過程であると記載してあるが、原生的要素を残している旨の記述に直す必要がある。 ○鳥類について、古い数値が記載されている。 ○森林に関する記述について、徳之島の記述を加える必要がある。	○藓苔類や動物類、鳥類等を含め地域を代表する種や希少種について、重みづけをした上で、分類の広がり分かるようバランス良く記載すべき。 ○当該地域の特徴的な生物間相互作用について記載すべき。 ○生物地理区の繋ぎ目であり、且つ亜熱帯で多雨という世界的にみて希有な環境にあることが、特有の生態系を生み出しているという視点も盛り込むべき。 ○歴史的背景について、林業がネガティブな書かれ方をしている。薪炭材の供給等、限られた資源の中で林業が地域に貢献してきた視点も重要である。
第2 保全管理に関する基本的事項	○遺産のコア・バッファーとの混同を避けるため、森林生態系保護地域では、コア・バッファーではなく、保存地区・保全利用地区の記載に統一すべき。	○溪流沿いの森林について、特徴的なものがあれば分けて考えることも必要。 ○保存地区における森林利用に係る記載箇所において、「学術研究のための生物遺伝資源の利用」は生態調査が含まれないような表現となっているので、記述内容の検討が必要。
第3 保全管理に関する具体的事項		
第4 保全管理に関する個別課題	○病害虫について、「検討する」ではなく、「検討し対応する」にすべき。 ○マツ枯れにのみ視点が当てられているが、ナラ枯れも危惧されることから、ナラ枯れにも対応した記載に変更すべき。 ○(教育や地域振興目的による)利用について、自由度の高い利用ではなく、色々と配慮された利用がなされるようにすべき。	
第5 推進体制	○関係機関等との連携について、ボランティアとエコツアーガイドが同じ段落に記載されている。ボランティアとプロによるエコツアーは別物であることから、分けて記載する必要がある。 ○情報提供も大事だが、(希少種等の)情報管理も重要である。	
第6 その他		